

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2024年4月分)

2024年6月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[スレブレニツァの虐殺に係る国連総会決議をめぐる動き](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[BH連邦下院セッションの実施\(22日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[RS選挙法の採択等\(18日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[ベチロビッチBH大統領評議会議長のNATO訪問\(8日～9日\)](#)

(2) 二国間関係

●[オルバーン・ハンガリー首相のBH訪問\(4日～5日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[柔道「サラエボ・ヨーロッパ・ホープ杯」及び講道館技術指導セミナー\(20日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●スレブレニツァの虐殺に係る国連総会決議をめぐり動き

国連総会において7月11日をスレブレニツァの虐殺の追悼日として制定することを目指す決議案の採択が目指されていることを受け、セルビア系は自らが「ジェノサイド民族」とのレッテルを貼られているとして強く反発。18日にはバニャ・ルカで大規模な集会が行われたほか、RS国民議会は独自に立ち上げたジェノサイド調査委員会の報告書を採択し、ジェノサイド認定を永久に拒否すると宣言するなど、ボシュニャク系との対決姿勢や分離主義的動きを強め、23日にはツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーが、大統領評議会のコンセンサスなく外交行動をとっているとしてラグムジャ駐国連BH大使(ボシュニャク系)を告訴した。

これに対し、ベチロビッチBH大統領評議会議長、コナコビッチ外相といったボシュニャク系は国際社会に決議の支持を強く呼び掛け、ベチロビッチ及びコムシッチ両大統領評議会メンバーは19日～23日にNYを訪問して国連において決議に係る説明を実施した。

●ボシュニャク系会合の開催(12日)

12日、コナコビッチBH外相の呼び掛けにより、BH及び周辺国に居住するボシュニャク系(オスマン帝国時代にイスラム教に改宗したスラブ人の子孫)の代表による会合がサラエボで開催された。BHからはコナコビッチ外相のほか、フルティッチ人権・難民大臣、ドウラコビッチRS副大統領等が参加した一方、ベチロビッチBH大統領評議会議長、イゼトベゴビッチSDA党首等は不参加。その他、周辺国からはズコルリッチ・セルビア国民議会前副議長

(正義と和解の党(SPP。セルビア・サンジャク地方最大の政党)党首)、イブラヒモビッチ・モンテネグロ・ボシュニャク党党首、レジェピ・コソボ副首相、コラシナツ・北マケドニア・ボシュニャク民主連盟党首等が参加。

●ジェノサイド否定の罪による初の起訴(29日)

29日、BH検察庁はRSで活動する親露・セルビア民族主義市民団体「東方オルタナティブ」主宰者であるヴォイン・パブロビッチ(スレブレニツァ近郊のブラトウナツ在住)を、同人が昨年ジェノサイドを否定する内容のポスターを市街に貼るなどしたことによりジェノサイド否定の罪で起訴した。2021年7月にインツコ前上級代表がボン・パワーを行使してBH刑法を改正し、ジェノサイド否定に対する刑事罰を規定して以降、起訴に至ったのは初めて。パブロビッチ氏は2021年10月にムラディッチ司令官及びドディックRS大統領の写真をブラトウナツ市街に掲げたとして起訴されたが、インツコ上級代表の刑法改正以前(21年3月)に行われた当該行為に対しては改正法を遡及して適用できないとして裁判所が訴えを棄却していた。

●祈祷朝食会の開催(29日)

29日、サラエボにおいて第一回全国祈祷朝食会が開催され、シュミット上級代表、ニクシッチBH連邦首相、カリッチ・サラエボ市長等が出席した。本行事はカリッチ市長及びユラトビッチ・ドイツ連邦議会議員(ボシュニャク系移民)等であり、米国で伝統的に開催されている祈祷朝食会に倣ったもの。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH連邦下院セッションの実施(22日)

22日、BH連邦下院のセッションが1ヶ月半

ぶりに開かれ、学生の活動に関する法律の採択、精神科医の活動に関する法案の草案の可決等が行われた。ニクシッチBH連邦首相は、議会の機能停滞が解消され、市民生活の向上に資する法律の可決が進んでいくことを歓迎した。

イ スルプスカ共和国(RS)

●バニヤ・ルカ展示会の開催(3日)

3日、バニヤ・ルカにおいて初の企業展示会となる「Banja Luka EXPO」が開催され、ドディックRS大統領が出席した。ドディックRS大統領は開会式において、セルビア、ハンガリー、ロシア、中国等による投資に言及し、米国の制裁があっても投資は存在している旨強調。

●スレブレニツァにおける通りの名称変更(15日)

15日、スレブレニツァ市議会は、ボシュニャク系が反対する中、スレブレニツァ市内のいくつかの通りの名称を変更する決定を行った。これに対し、ボシュニャク系は、紛争期のセルビア系によるボシュニャク系への民族浄化的な動きを繰り返すものであるとして強く反発している。OHRは、名称変更決定はボシュニャク系が参画しないプロセスで行われており、民族間の和解及び信頼醸成に一切資さないものであるとコメントしつつ、特段の介入を行う意向はない旨表明。

●RS選挙法の採択等(18日)

18日、RS国民議会は緊急会合を実施し、独自のRS選挙法(国レベルのBH選挙法に基づいてBH中央選挙管理委員会(CEC)に与えられているRS大統領選挙、エンティティ議会選挙、RSでの地方選挙等の実施に係る権限、投票所委員会メンバーの任命権等をCECから引きはがし、RS選挙管理委員会に移管する等の内容を含む)を採択したほか、昨

年末に第一読会で可決されたRS住民投票法(投票率が50%に満たない場合に住民投票の結果を無効とする規定を撤廃)及びRS不逮捕特権法(政府高官等の不逮捕特権を2021年8月まで遡及して認定)採択した。これにより、ボシュニャク系民族議員団が「民族の死活的利益の拒否権(VNI)」を行使。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●ベチロビッチBH大統領評議会議長のNATO訪問(8日～9日)

8日～9日、ベチロビッチBH大統領評議会議長はブリュッセルを訪問し、ストルテンベルグNATO事務総長と会談した。ベチロビッチ議長はBH国内基地へのNATO軍の駐留を求めたほか、BHはNATO加盟申請のための条件を全てクリアしているとして、NATO側からの加盟招請の送付を提案。RSの分離主義的動向を止めるための予防的措置が必要であると述べた。これに対し、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーは、同議長の発言を無責任で個人的願望に過ぎないと批判した。

●ライチャークEU特別代表のBH訪問(15日～16日)

15日～16日、ライチャークEU特別代表(ベオグラード・プリシュティナ対話及び西バルカン担当)がBHを訪問し、サラエボにおいてベチロビッチBH大統領評議会議長及びコムシッチ同クロアチア系メンバー、またシュミット上級代表と会談したほか、ビジネスフォーラムの開会式のためモスタルを訪問し、同地でブチッチ・セルビア大統領及びプレンコビッチ・クロアチア首相と会談した。ライチャーク特別代表は、

BHがEU加盟を進めていくことの重要性を改めて強調した

●BH・EU ハイレベル会合の開催(24日)

24日、BHのEU加盟交渉開始に係る欧州理事会決定後初となるBH・EUハイレベル会合が開催され、クリシュト閣僚評議会議長が出席した。EUからはクープマン欧州委員会近隣・拡大交渉総局(DG NEAR)総局長が代表として出席。クリシュト議長は政府間協議(IGC)開催に向け、対話と合意及び相互尊重に基づいた改革に引き続き尽力するとしてうえで、欧州委員会に対し迅速なフィードバックを期待する旨強調した。

(2) 二国間関係

●オルバーン・ハンガリー首相のBH訪問(4日～5日)

4日～5日、オルバーン・ハンガリー首相はシーヤールト一同外務・貿易大臣とともにBHを訪問、サラエボ及びバニャ・ルカにおいて、BH大統領評議会メンバー、クリシュト閣僚評議会議長、ドディックRS大統領等と会談した。オルバーン首相は、西バルカン及びモルドバ、ウクライナ、ジョージアへのEU拡大の重要性を強調するとともに、外国によるBHへの介入を止めるべきとして3月26日のシュミット上級代表によるボン・パワー行使を批判。

●ドディックRS大統領の訪露(23日～25日)

23日～25日、ドディックRS大統領はネシッチBH治安大臣及びブディミルRS科学技術・高等教育大臣と共に Санкт・ペテルブルクで開催された安全保障フォーラムに出席。同地で改めてスレブレニツァの虐殺に関する国連総会決議についてボシュニャク系及び西側諸国を批判し、決議が採択された場合の分離独立可能性につき言及した。

(3) 日・BH関係

●柔道「サラエボ・ヨーロッパ・ホープ杯」及び講道館技術指導セミナー(20日)

20日、杵渕駐BH日本国大使は、サラエボ市近郊で行われた第一回「サラエボ・ヨーロッパ・ホープ杯」の開会式ならびに表彰式に出席した。同大会は15歳以下の柔道家のための国際大会で、欧州13カ国からあわせて240名弱の選手が参加した。

また、本大会に合わせ、日本の講道館から仮屋力氏、瀧本誠氏が柔道の技術指導のためBHを訪問した。



(写真: 表彰式及びセミナーの様子)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2024年3月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比6.9%のマイナス。また、昨年同月比9.4%のマイナス。

●雇用／失業率

2024年2月の失業者登録数は33万8528人(うち女性19万8,497人)で、前月比で0.6%マイナス、前年同月比で4.7%マイナス。

●平均給与

2024年1月の平均給与(手取り)は1,338 KMで、前年同月比で0.8%のプラス。

●消費者物価指数

2024年3月の消費者物価指数は前月比で0.3%のプラス。また、前年同月比で平均2%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.1%のプラス。

●貿易収支

2024年1月～3月のBHからの輸出総額は38.51億KM(前年同期比12.5%減)、BHへの輸入総額は68.1億KM(前年同期比4.1%増)。貿易収支は29.59億KMの赤字。

(2) 経済政策・公共事業

●BHエネルギー・サミットの開催(24日)

24日、ネウム(BH南西部、BHで唯一海岸線に面する町)において、米国がEUと協力し主催する「BHエネルギー・サミット2024」が開催された。今年はガス供給の対ロシア依存解消のために米国が重要視する「サウス・インターコネクション」(BHからクロアチアを經由し、TANAP/TAPパイプラインに接続)が主要なトピックとなり、マーフィー当地米国大使は同プロジェクトの進展の遅れについてクロアチア系を批判し、迅速な実施を強く求めた。

(3) 経済協力

●ドイツによるインフラ案件の停止(18日)

18日、当地ドイツ大使館は、RSの分離主義的動向の高まりを受け、今後RSでのインフラ案件への資金提供は行わない旨、メディアの取材に対して回答した。昨年8月、ドイツはRSでの4つのインフラ案件を停止する旨決定し、銀行との契約期間がまもなく満了となるが、契約更新を行わず、RSへの資金提供は行わないという姿勢が継続される。

他方、ドイツが資金を停止した案件について、オルバーン・ハンガリー首相がBHを訪問した際にドディックRS大統領が資金提供を要請、ハンガリー側がこれに応じ、1億4000万ユーロ規模の資金提供が合意されている。

(4) 民間セクター

●独マーレ社による対RS大規模投資(23日)

23日、RS中部のラクタシ郊外のアレクサンドロバツ(バニャ・ルカから北に約30キロ)にて、自動車エンジン用ピストン世界シェア1位のドイツ自動車部品メーカー「マーレ(Mahle GmbH)」のBH工場拡大記念式典が開催され、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーが出席した。新工場の規模は3万平方メートルとなり、2026年始めまでに新たに600人の従業員を雇用する見込み。また、投資規模は約2000万ユーロとなる。